

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和4年6月16日（木）

### 2 確認箇所

プロセス主建屋周辺

高温焼却炉建屋周辺

### 3 確認項目

- (1) 除染装置スラッジ回収施設搬入用仮設構台等設置工事の進捗状況
- (2) 高温焼却炉建屋入口付近陥没の対応状況

### 4 確認結果の概要

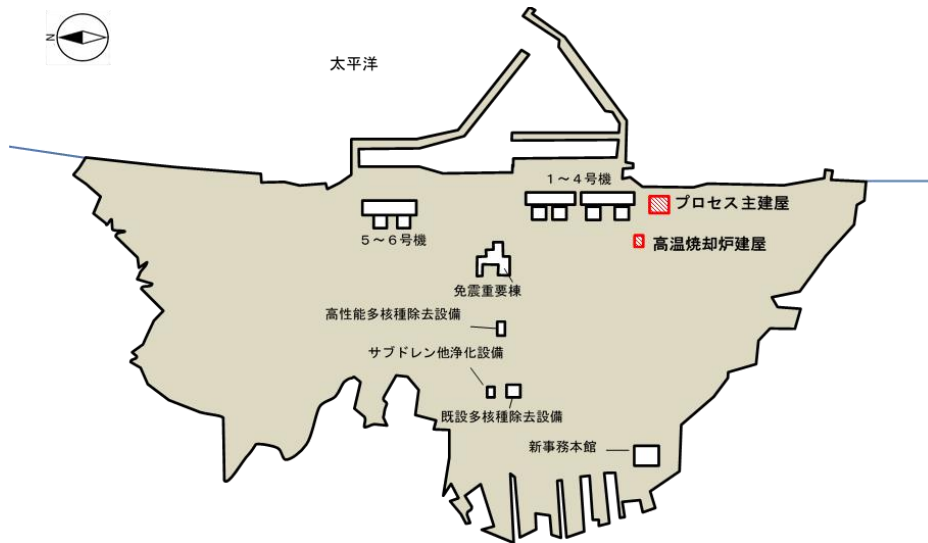
- (1) 除染装置スラッジ回収施設搬入用仮設構台等設置工事の進捗状況

敷地東側のプロセス主建屋（以下「PMB」という。）の地下貯槽には、震災で発生した汚染水を除染装置※で処理した際に生じた高線量のスラッジ（除染装置スラッジ）が約37m<sup>3</sup>貯留されている。この除染装置スラッジは、PMBに津波が到来した場合に漏えいするリスクがあることから、回収して高台に移送する計画がある。

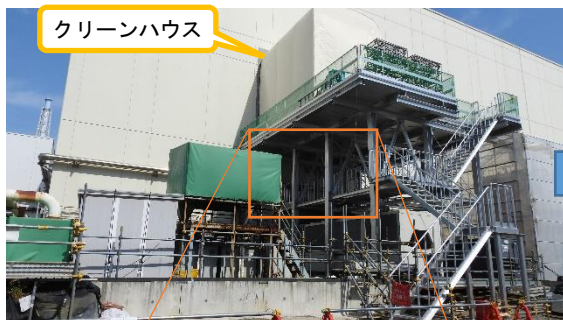
PMB南側では、廃スラッジ回収装置の設置に向けた準備工事として、作業員のアクセス、機器の搬入のための搬入口及び仮設構台の設置が進められていることから、状況を確認した。（図1）（前回確認：令和4年3月11日）

- ・仮設構台の中2階には、今後局所排風機や連続ダストモニタが設置され、開口作業等の際には監視員が配置される予定であり、今回確認したところ、新たにハウスが設置されていた。（写真1）（写真2）
- ・東京電力によると、7月より壁面の開口作業を進め、その後スラッジ回収施設の設置などを行い、令和5年度下期のスラッジ抜き出し開始を目指すとしている。

※除染装置：平成23年6月に運転を開始したフランスの企業が製造した汚染水処理設備であり、薬剤を混ぜることによってセシウムなどの放射性物質を凝集沈殿させることができる。沈殿した2次廃棄物（除染装置スラッジ）が発生するため、平成23年9月以降は運転を停止している。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



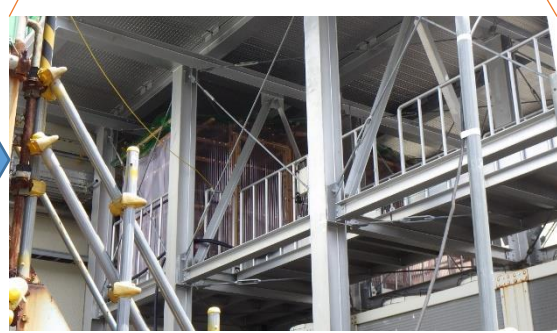
(写真1-1)  
前回のプロセス主建屋南側壁面の状況 (令和4年3月11日撮影)



(写真1-2)  
プロセス主建屋南側壁面の状況 (令和4年6月16日撮影)



(写真2-1)  
中2階の状況  
(令和4年3月11日撮影)



(写真2-2)  
中2階の状況  
(令和4年6月16日撮影)

(2) 高温焼却炉建屋入口付近陥没の対応状況

4月1日に東京電力のパフォーマンス向上会議で審議された福島第一原子力発電所不適合情報によれば、3月24日、高温焼却炉建屋（以下「HTI

建屋」という。)の東側大物搬入口付近で陥没が確認されており、原因は3月16日に発生した福島県沖地震であると推定されている。HTI建屋には汚染水処理設備(SARRY)があり、現在も使用されているため、この対応状況を確認した。

- ・ 陥没箇所周囲は単管バリケードで区画されており、立入り禁止の表示があった。(写真3-1)
- ・ 陥没が生じた箇所には、アスファルトが波打つような状況が見られた。(写真3-2)
- ・ HTI建屋入口の土間コンクリートには、陥没対策のための注入剤を注入した痕跡があった。(写真3-3)



(写真3-1)  
陥没箇所の区画の状況



(写真3-2)  
陥没の状況



(写真3-3)  
陥没対応の状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認  
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。